

彼方「あなた」

校長通信
H24.5.21
Vol.12

【朝の打合せで話したこと②】



校長としての考えや進むべき方向性を理解して頂きたくて、職員打合せを行っています。いつも先生方には、真剣に聴いてもらっています。本当にありがとうございます。そこで、これまでに先生方に話した

中からいくつかを紹介したいと思います。

四月十七日に全国学力状況調査が実施されました。その際に先生方に話をしたことは、B問題（いわゆる活用型の学力）に対する解決力を高めるために、意識して頂きたいことを五つほど話しました。

- ① 全員が「わかった!」「できた!」という授業をつくり続けていくこと
- ② 授業のルールを早めに定着させること
- ③ 「教えて!」と聞かれたら「いいよ!」と伝える人間関係を学級内につくること
- ④ 自分の考えを説明する場をつくること
- ⑤ グループ内の関係づくりを意図的に行うこと

これらを意識することが、校内研究（学力向上）を推進することなので、毎日が授業改善のための研究授業だと考えて取り組み、しかもそのことを生徒達にも理解させ、一緒に進めていきたいという話をしました。

また、四月のスタート以来、朝早くから夜遅くまで休み無く働き続けている先生方にタイムマネジメントの話をさせてもらったこともあります。

一週間を七日で考えていると、月曜から金曜まで通常の日課の中で必死に働き、土曜日は部活動指導に精を出し、日曜日に大会引率があると、一週間全く休みのない生活になってしまいます。そこで、一週間を七日×二十四時間＝一六八時間と考えると、自分が自由に使える時間が結構見つかります。

あることに目を向け、ポジティブな発想で気持ちをリラックスさせ、ストレス解消に努め、年度初めの大変な時期を乗り切り、健康管理に努めて欲しいということを話しました。

本校の先生方は本当に働き者です。どの先生も子ども達のために自分ができることを考えて一生懸命です。頭が下がります。それぞれ上手にタイムマネジメントして、早めに退勤する日を作って欲しいと話しました。が、「でもなー、校長はそう言うけど、実際は・・・。」という声が聞こえてきそうです。かつては、私も帰れない人のひとりでした。今の時期に仕事のめどがつかないまま帰ってしまうと次の日が最悪になるからです。「スタートの出遅れが後々まで響きかねない。」と考えていたからです。

でもやっぱり、ずっと仕事を続けるのは、ダメ

です。帰れるときは帰る職場風土も大切にしたいと思っています。

そこで、「年間をトータルで考え、落ち着いた頃にキツリ退勤できる日をみんなで作っていきましょう!」という提案をさせていただきました。私自身もさらに工夫できることは

何かを考え、先生方が少しでも退勤時間が早くなり、リフレッシュできるようにしたいと考えています。

初期対応について話した日もありました。

「ああしておけば良かった」「こうやって話しておけば良かった」という後悔は、文字通り後になってから悔やむのです。

でも私たちが心がけなければならないのは、ことが起きたときの初期対応です。初動体制ができていれば大きな問題にならずにすむことが案外多いものです。

「その日の内に!」「面子を捨てる!」を合い言葉に、事前に説明すること、間違ったらすぐに正すことを心がけ、子ども達や保護者のみなさんから信頼を得ることの大切さを話しました。

また機会を見つけて、打ち合わせの内容をお知らせします!

